石田堤

日本の源流再発見

File 8 埼玉県行田市

戦国時代の面影をのこす足袋の町

埼玉県行田市は、「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」として、日本遺産に認定されています。最盛期には全国の約8割の足袋を生産していたという行田市には多くの足袋蔵が残り、独特の景観を形づくっています。市内には「埼玉古墳群」があり、埼玉という県名由来の地ともいわれています。

数多くの足袋蔵が残る城下町

関東平野を流れる利根川と荒川に挟まれた行田市周辺では、従来綿栽培や藍染め織物（青縞）の生産が盛んでした。これを原料に行田市では足袋づくりが始まり、江戸中期ごろには名産品として全国的に広く知られるようになっていました。

足袋蔵（時田蔵）

足袋は明治以降に大衆化し、需要が拡大。原材料や製品を保管する倉庫として、ここ行田市にも多くの足袋蔵が建てられました。

行田市の足袋蔵は、江戸後期から1950年代までと長期間にわたって建設が続けられたこともあり、土蔵や石蔵に加え、木造、モルタル造、鉄筋コンクリート造など、さまざまなタイプの蔵が混在しています。現在も約80棟もの足袋蔵が残っており、町を散策すると、そこかしこで目にすることができます。今も倉庫として利用されている蔵もあれば、店舗やギャラリーなどに再利用されている蔵もあります。

足袋蔵まちづくりミュージアム

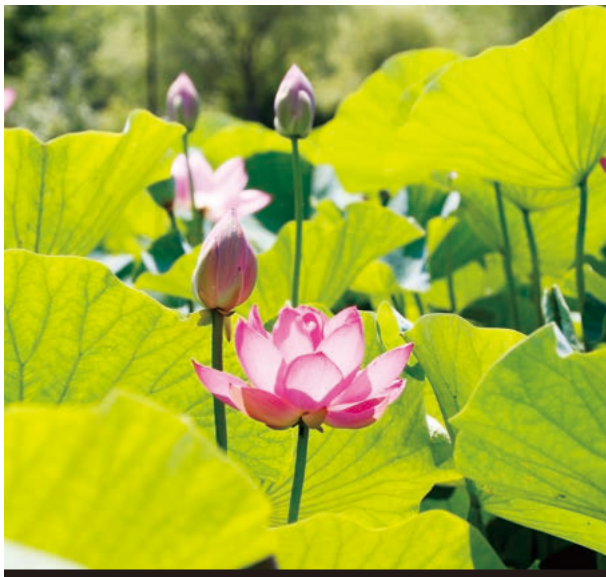
足袋蔵とともに行田の顔ともいえるのが、忍城趾です。ここは、和田竜のベストセラー小説『のぼうの城』の舞台となったところ。2012年には映画化され

All Rights Reserved,Copyright ©2017,Hitachi,Ltd.

▲ 忍城趾
現在ある「忍城御三階櫓（ごさんかいやぐら）」は、1988年に再建したもの。内部は郷土博物館の一部となっており、最上階から市内が一望できます

▲ 足袋とくらしの博物館
行田市を代表する“半蔵造り”の見世（店）蔵「牧野本店」脇の工場を再活用。実演見学や足袋づくり体験（要予約）が可能です（土日開館）

▲ 足袋蔵（小沼蔵）
需要が増える時期に備え、足袋の原料や製品を保管していた倉庫です。個々に保管して、生産量や出荷量を調整していました



▲ 古代蓮の里
行田蓮は、1971年公共施設の建設工事の際、偶然出土した種子が掘削地の池で自然発芽し、開花しているのが発見されました

たため、ご記憶の方も多いでしょう。1590年、豊臣秀吉が小田原城を攻めた際、石田三成を総大将とする2万余の軍勢に対して、農民を含む3千ほどの軍勢で城を守り抜いたのが、忍城城代であった成田長親（ながちか）。小田原の北条氏が降伏したため忍城は開城しましたが、最後まで抵抗を続けました。

石田三成は、忍城を攻める際総延長28kmともいわれる長大な堤防を作り、水攻めを行いました。その名残が「石田堤」として残っており、埼玉県指定史跡となっています。

行田市には天然記念物の行田蓮（はす）（古代蓮）もあります。原始的な形態を持ち、約1400～3000年前の蓮といわれています。市内の「古代蓮の里」では、古代蓮を中心に世界中の蓮の花を見ることができます。古代蓮の見ごろは6月下旬から8月上旬。他にも多くの植物が植えられ、四季折々に花を楽しめます。

ココに注目

大正時代から続く古沢商店の「フライ」は、行田市で人気のご当地グルメ。足袋工場の女性従業員たちのおやつとしても愛されました。

日立グループ事業所紹介

今回訪れた行田市のある埼玉県にはクラリオン株式会社があります。カーナビゲーションやカーオーディオをはじめとする車載情報機器製品や車載カメラなどの安全・安心分野製品の開発から製造・販売およびサービスまでを行っています。

クラリオン株式会社　埼玉県さいたま市中央区新都心7-2
http://www.clarion.com/jp/ja/top.html

All Rights Reserved,Copyright ©2017,Hitachi,Ltd.